

科目名	クオリアの科学
担当者	武田修三郎
配当学期	前期
単位	2単位
授業概要	<p>現下の日本はガラパゴス症候群の中にある。原因は知(知性)の衰退にあり、世界は次の知にシフト中なのに、知の再定義ができてない日本では依然として古い知の中が蔓延している為。知の再定義は知のビッグバンをもたらし、日本の衰退ではなく新たな飛躍につながる。日本の集中と選択は認識のシフトにある。科学(認識)は数(量)、質、そしてクオリア(質感)。今後もネバーエンディングで21世紀後半にはスーパー・クオリアも。クオリアの科学は人財作りの教養で、認知科学、組織論が核。内容は再定義した知、意思、メタ認知、メタ知性を学ぶ。なお、人財とは次の時代で活躍できる人、古い時代の知識やスキルに固執する消え去る側の人材とは峻別。</p>
授業の到達目標	知識やスキルをもつ人作りより、人財、つまり、次の時代や世界で活躍出来る徳を持つ、作り。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 世界的チェンジと知のビッグバン</li> <li>(2) ギリシア人が行った知の再定義(科学はギリシア人の発明)</li> <li>(3) 20世紀の再定義(量の科学からクオリアの科学へ)</li> <li>(4) (質、システム、プロセスの)推進者デミングと日本人</li> <li>(5) クオリア(新たな知のビッグバン)の時代</li> <li>(6) 金縛りとガラパゴス症候群(メタ認知、メタ知性)</li> <li>(7) クオリアの科学のコア(認知科学と組織論)</li> <li>(8) 脳の機能とクオリア(人間の再定義)</li> <li>(9) イノベーター(先駆者)とラガード(落伍者)</li> <li>(10) サステイナブルとイノベーションの理論</li> <li>(11) 経営のクオリア</li> <li>(12) 政治のクオリア</li> <li>(13) 公共経営のクオリア</li> <li>(14) 精神的骨格としてのクオリア</li> <li>(15) フロニーモス(イノベーター)たち</li> </ol>
教科書	時々の項目で資料並びにテキストを提示。
参考文献	<p>デミングの組織論、東洋経済新報社、武田修三郎          フロニーモスたち、宣伝会議、武田修三郎</p>
成績評価方法	出席 30%、対話(各界の人との対話も含む) 40%、レポート 30%
関連 URL	多数あり時々で指定
備考	認識のシフトは教育により、これは後期